



令和 5 年 12 月 27 日

南陽市議会議長 船山利美殿

会派 倫政会
会長 殿岡和郎

令和5年度 会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項目	調査・研修内容
調査期日	令和5年10月16日(月)から18日(水)まで 2泊3日
調査場所	① 大阪府高石市議会② 和歌山県田辺市議会
調査目的	① 子育て支援のイベントや施設について マタニティーセミナーから子育て施設まで、一貫性のある施策について 子育てウェルカムステーションの設置までの経緯とその運営について ② 田辺市建築課公式 Youtube チャンネルの取り組みについて
調査概要	別紙のとおり
その他	

会派	倫政会	報告者	会長 殿岡 和郎
大阪府高石市 和歌山県田辺市		視察日	令和5年10月16日～17日

和歌山県 田辺市

概要: 田辺市(たなべし)は、和歌山県中南部に位置する市。人口・経済の点で和歌山県第二の都市であり、和歌山県南部の経済・産業の中心地でもある。
熊野古道の中辺路ルートと大辺路ルートの分岐点であり、「口熊野」と称される。
面積は1000 km²を超え、近畿地方の市では面積が最大である(全国順位は28位)。
気候は黒潮の影響があり、比較的温暖であるが、内陸は山が迫り、山地的な気候の影響がある。
一方、市の北部は紀伊山地に面する。熊野本宮大社をはじめ、熊野参詣道、熊野九十九王子社跡などは、ユネスコの世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれる物件である。
海岸線は入り組んで田辺湾を形成する。湾の北の端には天神崎があり、南側は白浜に接する。
湾内には神島など小さな島があり、亜熱帯性の生物が記録されている。

田辺市公式Youtubeチャンネルの取り組み

1) Youtubeチャンネル開設の動機と経緯

田辺市では、ドローンなどを活用したデジタルツインのプロジェクト「田辺市デジタルツインプロジェクト」(以下DTP)を令和4年度から始めているが、本プロジェクトを進めていくにあたり市民をはじめいろいろな方々に情報発信をしていくことで理解を得ていくことを目的として、チャンネルを開設していた。

2) 開設までの問題

そもそもYoutubeチャンネルを「公式」と認める内部機関がなく、動画をチェックする決済システムも存在しなかったため、組織のガバナンスが効きにくいといった問題があった。

このため、WEBにアップする動画の内容チェックを課内で行う必要があったため、その点は注意を払う必要があった。

現在は、庁内で若手職員を中心とした「動画編集チーム」発足されたため、今後はそのガバナンスの方法について議論を進める予定

3) 動画撮影と編集作業について

DTPにおいて配備したドローンなどで職員が撮影を行いDTPで配備したパソコンと動画編集ソフトで職員が動画編集を行っている。

またドローン飛行時は、航空法に基づく必要な許可取得や事前飛行申請などを怠らないよう職員に対し、注意喚起を行っている。

4) 市民の反響

「市が行っているプロジェクトの理解が進む」「中が見えない新庁舎建設現場がよくわかる」「普段訪れる事がない市有施設を360度動画で見ることが出来てわかりやすい」「市の名所などが動画で見られて面白い」など、おおむね好評を得ている。

5) 視聴者の空き家購入など実際に成果はあったか

約3年間空き室になっていた山奥にある市営の定住促進住宅に、動画配信後3カ月の短期間で入居者が現れるなど、徐々にその効果が表れている。

また、現在建設中の市役所新庁舎への市民の関心度は高く、視聴回数も伸びている状況からその施策への理解度が深まっていると感じる。

所感: 田辺市は合併により3つの自治体が一つになった経緯があることから、市域が非常に広大で市庁舎のある臨海地域と熊野本宮大社がある山間部とでは、自動車でも1時間以上かかる。このため、山間部の市民が臨海地域の施設を確認するためや、その逆の場合に動画配信は非常に有効だと感じた。

また、新庁舎建設現場などの動画を撮影には高所からの撮影に使用する足場設置に40～50万円の費用が掛かったほか、撮影外注費に毎回5～8万円の費用が必要だったことを考えれば令和元年に20万円(補助金対象のため一般財源からは1割拠出)の費用で購入したドローンで自前で撮影したほうが安上がりとの説明に、今後を考えれば本市でもドローンを購入して有効活用したほうが良いのではと感じた。

会派視察報告書

令和5年 12月27日 提出

会派	倫政会	報告者	会長 殿岡 和郎
大阪府高石市 和歌山県田辺市		視察日	令和5年10月16日～17日

大阪府 高石市

概要: 高石市は、大阪府の中南部に位置し、北と東は堺市(西区)に、南は和泉市と泉大津市にそれぞれ隣接し西は大阪湾に面している。市域はほぼ全域が平坦。

東西6.1km、南北4.1km、面積11.35km²と、大阪府下の市では藤井寺市(8.89km²)に次いで2番目に面積が小さい。また、西半は堺泉北臨海工業地帯の埋立地である。交通は大阪府道204号堺阪南線、国道26号線、大阪府道30号大阪和泉南線、阪神高速4号湾岸線などの主要道路とともに、南海本線とJR阪和線という2つの鉄道路線が南北に走っている。また、羽衣・高石・富木の3駅から大阪市中心部まで所要時間約20分である。

大阪市中心部から近い好立地でありながら、直近の人口調査ではそれ以前と比較し5%以上の人口減少となっており、これ以上の人口減少に歯止めをかける目的で様々な子育て支援を行っている。

本市としても、人口の減少は深刻な問題でその対策は喫緊の課題であり、子育てをテーマにした人口減少その対策として自治の方法を勉強するため、具体的取り組み/問題点/実績について質問を行った。

<子育てウェルカムステーションの取り組み>

人口減少をくい止めることを目的とし、子育て支援環境整備の一環として市が施設整備を行っており、運営は指定管理者(アプラ共同事業体)の構成企業である株式会社ボーネルンドに委ねている。

現在の運営状況については、責任者1名、スタッフ8名(うち保育士4名)でローテーションする形をとっており施設設置にあたり、近隣市である堺市のキッズサポートセンターさかい(現在は閉場)や大阪市の天王寺公園などを視察し参考としていた。

利用状況に関しては、市外からの利用も可能で、料金も市民と同額であることもあり市内の利用が約3割市外利用が7割となっている

<地域子育て支援センター>

乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所として、子育てに関する相談事務、保育施設等の情報提供・助言などを実施することにより、地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安を緩和し子供の健やかな育ちを支援する施設として、高石市内に4カ所設置されており親子で遊ぶスペースを提供したり、子育てに関することや栄養・歯科相談など幅広いイベントを展開していた。

運営は4施設中3施設で市内の同一の社会福祉法人に委託しており、収支については全施設共に赤字経営であったが、特に市が主体の施設において収支の状況が良くない傾向だった。

所感: 高石市は大阪市からほど近く、高速道路を挟んで臨海地域には工業地帯が広がり反対側には住宅地が広がるという二面性を持った市だった。

市域は非常に狭く、山や丘陵といった起伏が全くない平地で自転車で簡単に1周できる狭い市域の中に全ての機能を詰め込むことは難しいためか、近隣自治体との連携や施設の相互利用などが進んでいる印象だった。

保育施設も見学させていただいたが、施設の周辺には新興住宅地が広がっており施設や園庭・駐車場などもスペース確保にかなり苦労されている様子だった。

本市においても、子育て施設の拡充は必要であるが、高石市のように遊休施設の利用や民間の再開発ビルを利用するなど、低予算で対応できる施策に参考に出来る点が複数あったと感じた。